

# 週刊 日本共産党市議会議員団 議会報告

発行 日本共産党市議会議員団  
岡野長寿  
0845-22-2596  
魚谷さとる  
0848-22-2810

## 「暮らし・営業は厳しくなっていないか？」

### — 共産党市議団から魚谷さとる市議が一般質問 —

#### 「一般質問の項目」

1. 市民の暮らし・営業の認識について
2. 国民健康保険制度について
3. 介護保険制度について
4. 小・中学校給食について
5. 御調地域の「乗り合いタクシー」制度などのデマンド交通について
6. 土堂小など3校の統合問題について

尾道市議会の「6月定例会」は、6月19日(月)に開会されます。共産党市議団からは4年ぶりに再選された魚谷さとる市議が、23日(金)の午前、2番目に左にあるような項目で一般質問を行います。

質問の項目は、先に行われた市議会議員選挙で共産党市議団が「公約」として掲げた内容で、その実現を求める立場からのものです。

「市民の暮らし・営業の認識について」では、コロナ給付金が10万円支給された当時と比べて、現在の市民の暮らしや営業は厳しくなっていることへの認識と、今後は国の交付金などに上乗せして支給するよう求めます。

「国民健康保険制度について」では、国民保険会計にある「財政補助制度を作ることを求めます。また、無料化のために要する費用を尋ねます。そして、議会が平成26年に採択した、中学校給食を早期にという趣旨の請願を、まともに実行してこなかったとへの反省を聞きます。

「小・中学校給食について」では、小学校給食費の無料化又は補助制度を作ることを求めます。また、無料化のために要する費用を尋ねます。そして、議会が平成26年に採択した、中学校給食を早期にという趣旨の請願を、まともに実行してこなかったとへの反省を聞きます。

「御調地域の「乗り合いタクシー」制度などのデマンド交通について」では、御調町で実施されている「乗り合いタクシー」制度の充実と、周辺の島嶼部での実施の検討を求めます。

「土堂小など3校の統合問題について」では、「検討にあたる

## 教科書採択の教育委員会議 公開の運びに！

### — 市民と共産党市議団の活動実る —

今年8月に来年度の小学校の教科書が決まります。その採択をする教育委員会議を公開で行うことが5月25日の教育委員会議で決まりました。

これまで「教科書を考える市民の会」が何度も要望し、共産党市議団も同席し、運動を励ましてきました。

岡野長寿市議は一般質問や文教委でこの問題を取りあげ、教科書採択を公開するよう迫ってきました。同市議の論戦を議事録から紹介します。(令和2年9月11日定例会)

◆岡野長寿 教科書採択の公開については、最近続々と公開に切り替えた自治体が増えていく。広島市、竹原市、2018年から三原、福山、呉、201

2019年から廿日市。尾道市も公開すべきでは？

◎学校教育部長(杉原妙子) 教科書採択に関わる教育委員会議の公開、非公開の現状につきまして、教育委員会事務局といたしまして、各自自治体の状況を把握し、そのことについては各委員さんにもお知らせをさせていただいている。十分な御議論の中、今年度、非公開ということの判断をしていただいた。

◆岡野長寿 私は、6月25日の文教委員会でもこの問題を取り上げ、教育委員は私人ではなく、公人として会議に臨んでいくので、なぜ非公開かという質問をした。そのときに、非公開の理由らしきものは、静ひつな環境の中で採択をするというふうなことが。(続く)

#### 【6月議会日程】

6月19日(月)	10:00	議会運営委員会
	13:00	本会議(開会)
6月21日(水)	10:00	一般質問
6月22日(木)	10:00	一般質問
6月23日(金)	10:00	一般質問
※魚谷さとる市議が質問します		
6月21日(水)	13:00	総務経済委員会
※魚谷さとる市議が質問します		
6月27日(水)	13:00	福祉環境委員会
※岡野長寿市議が質問します		
6月29日(木)	13:00	教育スポーツ委員会
終了後 議会運営委員会		
7月4日(月)	10:00	議会運営委員会
	13:00	本会議(閉会)

ぜひ、傍聴にお越し下さい！

#### 「政務活動費の公開」

##### 代表者会議で求める

共産党市議団は、先週号で紹介した「政務活動費の公開」について、7日行われた代表者会議で、県内で公開していないのは尾道市と江田島市だけであることを紹介し、公開していくべきであると問題提起しました。

党市議団の提起を受けて代表者会議では、各会派に持ち帰り協議し、その上で改めて代表者会議でこの問題を協議することになりました。

#### お困りごとがあれば

共産党市議団(岡野長寿・魚谷さとる)にご相談を！

ての考え方の3つの点」について、①「安全性の確保」、②「校舎の耐久性(築年数に伴う影響)」、③「適正な学校規模の確保」の問題点や矛盾点を指摘し、土堂小の現地での存続を求めます。

※質問項目の詳細は裏面へ

## 1. 市民の暮らし・営業の認識について

- ① コロナ給付金が10万円支給された当時と比べて、現在の市民の暮らしや営業は厳しくなっているとの認識はあるか
- ② 今はいわば非常時といえる。今後も国の交付金などに乗せして、市の貯金である財政調整基金などを活用して、暮らしや営業の支援をすべきであると思うかどうか、また、これまでそうした給付の際、上乘せして支給したことがあったのか

## 2. 国民健康保険制度について

- ① 国民健康保険料の「県単位化」について  
1 「県単位化」で保険料は統一されるが、医療を受ける機会の違いがあることについて、どのように考えているか
- 2 来年度から本格的な保険料の「県単位化」が始まるが、これまでの準備期間とくらべて、どこがどのように変わってくるのか
- 3 市が持っている国民健康保険会計にある基金について、県はどのような方針を保持していると承知しているか
- ② 保険料の引き下げについて  
1 国民保険会計にある「財政調整基金」約5億8千万円や一般会計にある「地域福祉基金」約17億6千万円を活用して、市民の暮らしを応援するために保険料を引き下げているかがか

## 3. 介護保険制度について

- ① 第9期計画について  
1 現在市が知り得ている介護保険制度の改正点についてどのように把握しているか。第9期計画策定に向けて、どのようなスケジュールで進めていく予定なのか
- 2 第8期計画が折り返し点を通過し3年目になりながら、第9期計画に向けて何が課題だと認識しているか
- ② 特別養護老人ホームの増床について  
1 特別養護老人ホームの待機者は、各自自治体から県に報告し、県が1年に一度集計していると思うが、直近の集約では何人いるか
- 2 第9期計画では、待機者の多い特別養護老人ホームを増床すべきではないかと思うかどうか
- ③ 介護保険料の引き下げについて  
1 第9期の3年目の今年、ゼロであってもいい基金が約16億円もあることについて説明を求め
- 2 来年度の第9期計画の保険料を決めるに当たっては、この基金を活用して低く抑えるべきだと思いませんか

## 4. 小・中学校給食について

- ① 小・中学校給食の無料化又は補助制度について  
1 尾道市でも小学校給食費の無料化又は補助制度を作ってはどうか。その際、無料化のために要する費用はいくらになるか

## ② 中学校給食について

- 1 市民の代表である議会が採択した、中学校給食を小学校のような給食を早期に、との趣旨の請願をまともに実行してこなかったとへの反省はあるか

## 5. 御調地域の「乗り合いタクシー」制度などのデマンド交通について

- ① 御調地域の「乗り合いタクシー」制度などのデマンド交通について  
1 今後御調町で実施されている「乗り合いタクシー」制度をどのように改善・充実させるのか概略を示してほしい
- 2 尾道は2市3町で、向島、因島、生口島と広い市域になった。この地域での車を持っていない高齢者などの移動は、御調町と同様な問題があり、バスの便数などがどのようになっているのかを検討されたことはあるか。そして、必要なら何らかの施策の展開がしているのではないか。

## 6. 土堂小など3校の統合問題について

- ① 土堂小など3校の統合問題について  
1 関係者がどんなに現地存続を望んでも「いつか決断しなければならぬ」と、スケジュール通り9月議会に設計費の補正予算を提出するつもりなのか、明確に答えて下さい。
- 2 現在児童数が88名の向島町の三幸小学校は、過去に統合の計画が立てられたが、未だに統合されていない。それは関係者が統合を望んでなく、それを教育委員会が認めたからで、それがどうして土堂小学校で認められないのか
- ② 「検討にあたっての考え方の3つの点」その①「安全性の確保」について  
1 現在ある小学校24校の内、警戒区域にある学校が16校、67%、特別警戒区域にある学校が10校42%もある。同様に中学校16校の内、警戒区域にある学校11校、69%、特別警戒区域にある学校が10校、実に63%もある。安全性の確保を言うなら、この状況は大問題ではないか。教育委員会の見解を伺う
- ③ その②「校舎の耐久性(築年数に伴う影響)」について  
1 耐震化前の吉和小学校の校舎は昭和46年建築で地震に対する強さを示す「値」は0.29、同じく栗原小学校の校舎、昭和44年建築の「値」は0.24に對し、土堂小学校の昭和12年建築の校舎の「値」は0.29、同じく久保小学校の昭和8年建築の校舎の「値」は0.39と耐震性能は80年以上経った土堂小や久保小の方がいいという結果が出ているが、教育委員会としてこれをどう説明されるのか
- ④ その③「適正な学校規模の確保」について  
1 小学校で全年齢複級学級があるのは小学校で23校中6校で、26%と4分の1、中学校は16校中11校で、69%です。それを3小学校、いわんや中学校まで統合しようというのは道理がないのではないか。
- 2 土堂小学校の児童数については、隣接している日比崎小学校との学区の見直しをすれば、一定数の人数を確保できるが、日比崎小学校との学区の見直しをすることについて、教育委員会の見解を伺う
- 3 日比崎小学校では平原の開発や新浜、天満町、栗原西1丁目のマンション建設で児童が増え、運動場に仮設校舎を建てたままで運動会すら自校でできず、日比崎中学校で行っている状況があり、これこそよりよい教育環境とは言えないのではないか